

【事業名】リソル生命の森における郊外型スマートコミュニティ構築事業

(1) 事業概要

主な事業者	リソル生命の森株式会社
事業地	千葉県長生郡長柄町
施設名称	リソル生命の森
面的利用エリア面積	約330万m ²
主な再生可能エネルギー	太陽光発電、空気熱利用
面的利用先	ゴルフクラブ(真名・ゲーリー) 日本ディカルトレーニングセンター(JMTC)
主な導入設備	太陽光発電1,000kW(PCS)、1,200kW(パネル) ヒートポンプ(HP)・蓄熱式給湯 6m ³ 貯湯槽×2セット
事業期間(稼働予定)	30年9月～32年2月(32年4月稼働予定)
省エネ効果見込	省エネ量: 338kL/年、省エネ率: 31.4%

(2) 事業の特徴

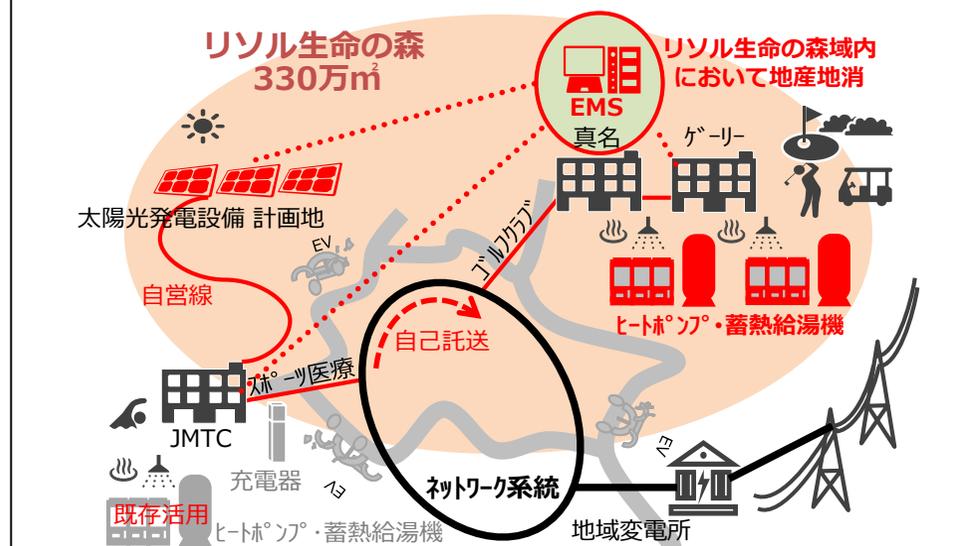
- リソル生命の森は、東京都心から離れた郊外に位置する地域に位置し、ゴルフ場・ホテル・医療・住宅等の様々な用途の施設が混在し、コミュニティタウンを形成している。
- 敷地内に設置する太陽光発電(PV)の電力は、自営線の新設と域内の電力ネットワーク系統を活用した「郊外型プレミアムグリッド」方式により配電する。
- 地産の再生可能エネルギーを地消する設備として、貯湯(蓄熱)型のHP給湯機、EVを活用した充放電システムを導入し、エリア一体で適正なエネルギー管理を行う。

(3) 導入効果

- 地産の電気・熱を活用して交通を含めた域内のエネルギー自給率を高め、リソル生命の森全体の省エネルギー・省CO₂を実現する。併せて簡易なBCP対策も講じる
- 本事業で実証するプレミアムグリッド供給とエリアエネルギー管理により、汎用性の高いハイブリッド型モデルを構築することによって、FIT制度に頼らない地産地消を前提とした再生可能エネルギーの新しい普及モデルである。

(4) 事業イメージ

- ◇郊外型プレミアムグリッド・・・PV計画地から自営線でトレーニングセンターへ電力を供給、またトレーニングセンターで余剰となった電力は、系統ネットワークを介してゴルフ場へ自己託送することで事業地域内で全て自家消費する。
- ◇エリアエネルギー管理・・・トレーニングセンターの既存HP給湯機の利用に加えて、ゴルフ場施設へHP給湯機、EV向け充電器など地消機器を新設し、EMSの制御により、PVの創出電力を地域内で自家消費する。
- ◇汎用モデルの構築・・・電気・熱・交通を一体で管理するモデルを通じて、郊外地域における新たな再生普及モデルを創出することを志向。



(5) 面的利用概要

- ◇PVから創出される電力を広大なリソル生命の森内で地産地消するために、自営線の新設と既存のネットワーク系統を活用して、敷地内に散在する建物間を合理的に接続し、面的にエネルギー利用を行う。
- ◇変動するPVの電力は、EMSを用いて、充放電機能を持ったEVの活用、蓄熱機能を有するHP給湯機の熱製造に再生電力を活用する等、域内にある設備を一体で適正運用し地産地消に繋げる。